



日本マスターズ柔道

2010年1月15日
JMJA-News 第9号

日本マスターズ柔道協会
〒153-0065

東京都目黒区中町2-45-8-209

電話/FAX 03(3793)1846

発行 会長 清水正敬

ホームページ

<http://jamja.hp.infoseek.co.jp/>

第6回日本大会・大分

北海道からも参加、九州初の大会、盛り上がりました



大会初日開会式 宣誓は上野和香子選手(北海道)

新年のご挨拶

会長 清水正敬

平成二十二年の新年を迎え、心より新春のお喜び申し上げます。

昨年二月より前野口会長の後任を仰せつかり未熟ながら務めさせて頂いております。

マスターズ柔道の更なる発展を目指しながら一歩ずつ進めて参りたいと思っております。そこで、この一年を振

り返りながらより良く・楽しい協会作りをして行きたいと思っております。

例年大きな二つの行事として6月の世

界マスターズ柔道大会と秋の日本マスターズ大会があります。昨年世界大会はハンガ



加しました。第1回ベテランズ大会は約900人の参加でした。

8月の第11回の世界マスターズ・アトラクタ大会は前回までは、千人以上の参加者でしたが、ヨーロッパ勢が大幅に不参加と

なり今回は650人程度となりました。9月の大分日本マスターズ大会前のアトラクタ行きは何かと心配しながらも23人で形・試合に観光に草の根外交と、楽しんで参りました。

日本マスターズ大分大会は当初、参加選手数がどの位かが心配でした。大会日程も3

日から2日となり、運営費用面では最低250人位確保が必要でした。大会運営上、形・試合を行うには300人位が丁度との予測でしたが、結果参加者325人となり費用面では先ず問題クリア。大会運営では形競技を試合同様4試合会場で行った事により時間短縮が出来、選手は分かり易い組み合わせ表によりスムーズな進行で参加者全員から大変好評でした。その結果、当初の予定時間よ

り大幅に早く終了、全て完璧に運営して頂きました山中会長、北村理事長他大分県柔道連盟の皆様には深く感謝を致しているところです。今回も事故、怪我人も無く終了出来ました事は協会に取りまして大変な喜びでした。

そして、二十二年度の二大行事もここに来て、ハッキリして参りました(二十一年十一月十八日現在)。

IJF第2回ベテランズ大会は5月27日、30日ハンガリー・ブタベストで開催、形も加わる事になり、日本マスターズ柔道協会としてこちらに行きたいと考えております。

又、従来の第12回世界マスターズ柔道大会は8月17日、22日カナダ・モントリオールで開催で最後となり、来年度以降はIJFがマスターズ大会として一本化となる予定です。この大会には協会としては団を組んでの予定は有りませんが、参加は自由です。

日本マスターズ新潟大会は、昨年同様敬老の日の週で9月25(土)26(日)に長岡市に決定

致しました。この週は他の月より各種大会と重ならず、シルバーウィークで昨年同様元氣な中高齢者をマスコミが取材する機会も多くPRに繋がります。又10月後半に行われます「全日本柔道競技大会」の選手がこの大会を予行演習的な位置付けとして参加する事を期待して、今後続く各県柔道連盟にもお願いしてこの時期に定着して行けたらと思っています。

新潟大会は5年前に中越地震に遭われた長岡市で首都圏に近く日帰りで参加出来ますし、多くの皆さんに参加頂き、市が活気づけられれば良いと思います。

大分大会の最新データを基に会員の状況を見ますと、新会員115人が加わり計約110人となり、参加男子301人を年齢別でM1、M6までと60歳以上のM7以上で見ますと65・35で段々と30代、40代の伸びが顕著でした。段別に見ると初段4段が41%、5段以上59%で全国高段者大会に参加出来ない方にも試合機会が出来る事があります。初段

と6段、2段と7段の対戦といった普段見れない試合も多く有った事と思います。

そこで、昨年の全国高段者大会参加1309人を見てみますと、内マスターズ会員221人(17%)が出場し特にその内8段の部は30%、7段、6段の部は20%を占めていました。

全日本柔道競技大会に於きましては過去14人の優勝者が出ておりその内数人の方は複数回優勝しております。昨年の大会にも21人が出場し4人が優勝しております、五の形・古式の形には夫々7人が出場しておりました。マスターズ大会に出場する以上いい成績をと、日頃から目標を持ち稽古に励んでいる成果であると思います。

この様なマスターズ会員の活動が少しずつ柔道界の中でも認知されて来た結果、全柔連専務理事の小野沢先生よりのIJF第1回ドイツ・ペテランズ大会への参加要請であり、天理大学細川教授にはIJF会議に於いて日本マスターズ協会の要望を伝えて頂き、

今年第2回ハンガリー大会から早速に形の部を加えて頂きました事は、大変感謝致しているところでです。

今後日本マスターズ柔道協会をより一層発展させる為には、大会の参加者を増やす事です。その為には参加料を下げる方向も検討して行かなければいけないと思っています。協賛金、広告獲得活動を展開しながら地道に会員同志の各地での連携と仲間を誘いながらの生涯柔道人発掘で柔道界の底辺拡大・活性化へ繋げて行きたいと思っています。会員の皆様の一層の御支援御協力をお願い申し上げます。

今年一年も元気で道衣を着良い汗と稽古後のビールで健康に行きましょう。

第六回大会メダリスト

形の部

投の形

- ①中野眞利(大阪)・芹田和典(兵庫)
- ②鈴木治雄(千葉)・石邑勇(千葉)
- ③玉田誠(兵庫)・三木義則(兵庫)

固の形

- ①中島忠(埼玉)・杉原尚(茨城)
- ②黒田美千子(岐阜)・大宮民子(愛知)
- ③三木義則(兵庫)・玉田誠(兵庫)

極の形

- ①中野眞利(大阪)・芹田和典(兵庫)
- ②石邑勇(千葉)・鈴木治雄(千葉)
- ③有田早苗(栃木)・海老沼一勝(栃木)

柔の形

- ①安東鉄男(大分)・百瀬薫孝(大分)
- ②松本紀子(愛知)・石川正栄(愛知)
- ③榎本好根(愛知)・中村太(愛知)

護身術

- ①溝田良英(長崎)・川上寛之(長崎)
- ②榎本好根(愛知)・中村太(愛知)
- ③三橋英夫(神奈川)・西久保博信(神奈川)

五の形

- ①毛利修(埼玉)・清家春夫(千葉)
- ②安河内浩(東京)・杉原尚(茨城)
- ③山本一孝(宮崎)・伊福義雄(宮崎)

古式の形

- ①清水正敏(東京)・清家春夫(千葉)
- ②今立篤子(秋田)・黒田美千子(岐阜)
- ③小柳平八(佐賀)・森田実(佐賀)

年齢別体重別個人戦

男子の部

- M1(30〜34才) 60kg下 ①中山幸久(大阪) ②栗原正幸(埼玉) ③佐藤安伸

(香川)

- M1 66kg下 ①中山直秀(埼玉)
- ②濱崎貴司(長崎) ③今村 剛(長崎)・植松直哉(東京)
- M1 73kg下 ①佐藤真生(宮城)

- ②山本洋史(高知) ③佃 和明(石川)
- M1 81kg下 ①田中博幸(石川)
- ②福富忠信(長崎) ③江口統史(佐賀)・西山功輔(佐賀)

- M1 90kg下 ①奈木佑次(兵庫)
- ②ペレイラ・ロドリゴ(滋賀)
- ③小西英二(滋賀)

- M1 100kg下 ①久保忠和(大分)
- ②坂本 究(長崎) ③清水達生(群馬)
- M1 100kg超 ①松原勝利(高知)

- M2(35〜39才) 60kg下 ①佐藤正美(宮城) ②鈴木政明(栃木)
- M2 73kg下 ①宮本功三(東京)
- ②井田秀昌(大分) ③藤原誠(兵庫)・笹谷繁(大阪)

- M2 81kg下 ①上蘭義明(大阪)
- ②長谷川靖二郎(大阪) ③岩田竜一(大阪)・岩村憲幸(大阪)

- M2 90kg下 ①桂 剛(大阪)
- ②千葉記位(神奈川) ③古川克二(滋賀)・緒方正憲(福岡)

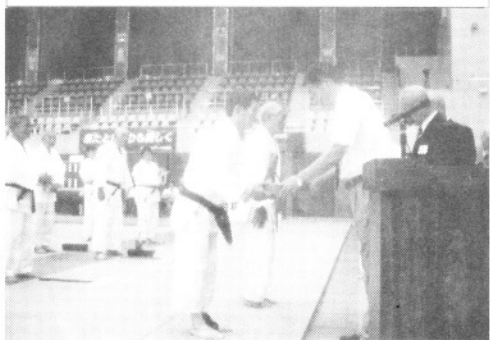
- M2 100kg下 ①平田和義(大阪)
- ②川坂修治(石川) ③末吉貴彦(鹿児島)・西原昌良(高知)

- 貴志M2 100kg超 ①加納幸喜(神奈川)
- ②瀧石宗弘(大分) ③高須正巳(兵庫)・宮之前廣和(大阪)

- M3(40〜44才) 60kg下 ①大田原



大会2日目の開会式で80歳以上の出場者5名に功労賞が贈られました(写真上)
ついで5回出場者44名に表彰楯が贈られました(写真下)



賢作(岡山) ②安井重信(石川)

③吉島大二(東京)

M 3 66 kg ①片岡孝志(徳島)

②今嶋禄郎(大阪) ③青木太(茨城)・玉田誠(兵庫)

M 3 73 kg ①長友龍治(宮崎)

②長谷川浩(東京) ③堂本和宏(長崎)・野口隆史(宮崎)

M 3 81 kg ①芦田和典(兵庫)

②高野賢司(東京) ③十川英明(徳島)・島居弘茂(宮崎)

M 3 90 kg ①中島洋文(大分)

②栗本大士(大阪) ③大幸茂(熊本)・檀上竜二(愛知)

M 3 100 kg ①山本典実(愛知)

②長谷川靖浩(千葉) ③永松俊宏(大分)・原口正秀(福岡)

M 3 100 kg ①松山尚浩(福岡)

②出口博隆(大分) ③窪田智之(愛知)

M 4 (45~49才) 60 kg ①小玉勉(兵庫)

②戒井高広(兵庫) ③佐藤正弘(鳥取)・村上富儀(高知)

M 4 66 kg ①喜多康之(大阪)

②平野健太郎(千葉) ③中村太(愛知)・喜井仁司(愛媛)

M 4 73 kg ①上田一美(愛知)

②山下義寛(石川) ③西出大作(和歌山)・榎本好根(愛知)

M 4 81 kg ①小池伸治(神奈川)

②山崎 悟(長崎) ③西村一晃(滋賀)・国吉真登茂(神奈川)

M 4 90 kg ①赤尾信行(山口)

②中野真利(大阪) ③相本智彦(兵庫)・山口昌史(大阪)

M 4 100 kg ①南 睦志(滋賀)

②三島正一郎(熊本) ③堀川信幸(石川)

M 4 100 kg ①亀井龍平(東京)

M 5 (50~54才) 60 kg ①北尾浩(兵庫)

②三木義則(兵庫)

M 5 66 kg ①梶泰章(神奈川)

②養父洋介(兵庫) ③酒井幸敏(大分)・甲斐浩二(宮崎)

M 5 73 kg ①中込常昭(東京)

②佐藤光廣(青森) ③鈴木康敬(高知)・飯塚雅彦(大阪)

M 5 81 kg ①中本啓二(兵庫)

②金子満男(千葉)

M 5 90 kg ①卜部秀幸(愛知)

②荒木一則(大阪) ③山田龍一(大阪)

M 5 100 kg ①穴井隆信(大分)

②中山章司(香川)

6 (55~59才) 60 kg ①鍋浦正(香川)

M 6 66 kg ①田名宏章(宮崎)

②原 優(東京) ③田中茂(東京)・古山仁(滋賀)

M 6 73 kg ①佐原恭輔(長崎)

②平野相徳(和歌山) ③松岡敦弘(大分)・紀野脩二(大阪)

M 6 81 kg ①上木保男(千葉)

②横山孝信(石川) ③田中穂波(大分)・石邑勇(千葉)

M 6 90 kg ①羽山明(千葉)

②大塚俊彦(埼玉) ③神園修一(東京)

M 6 100 kg ①雑賀昌盛(兵庫)

②安立俊二(兵庫) ③足羽裕二(兵庫)

M 7 (60~64才) 60 kg ①大矢八平(兵庫)

②加藤忠勝(東京) ③三浦孝司(奈良)・小泉基靖(東京)

M 7 66 kg ①柿田豊一(石川)

②濱口國光(愛知) ③見原道生(宮崎)・糸川明夫(鳥根)

M 7 73 kg ①久宮登三夫(栃木)

②浅田三男(神奈川) ③片桐清司(滋賀)・砂川利和(山口)

M 7 81 kg ①山田次光(大分)

②諸山和美(愛知) ③菊池正敏(千葉)・吉成隆杜(東京)

M 7 90 kg ①大渡光好(宮崎)

②篠田強一(群馬) ③小池健三(埼玉)・山本昭(兵庫)

M 7 100 kg ①吉永豊喜(大阪)

②久保雅昭(東京) ③佐藤美弘(大分)

M 8 (65~69才) 60 kg ①坪井貞夫(岡山) ②相田盛良(長崎) ③田倉幸夫(東京)・鬼柳一字(岩手)

M 8 66 kg ①小西正弘(千葉)

②清田洋一(大分) ③中島忠(埼玉)

M 8 73 kg ①内藤純(栃木)

②西尾勝彦(奈良) ③五十嵐徳英(千葉)・伊藤久雄(千葉)

M 8 81 kg ①清家春夫(千葉)

②安藤洋志(埼玉) ③三橋英夫(神奈川)・鈴木治雄(千葉)

M 8 90 kg ①鷹尾健治(香川)

②工藤博義(神奈川) ③江崎寛(千葉)・大上敏幸(東京)

M 8 100 kg ①田崎尚武(大分)

M 9 (70~74才) 60 kg ①永島健次郎(千葉) ②杉原尚(茨木)

M 9 66 kg ①仁木征輝(岡山)

②山本健夫(東京) ③小笠原昭行(山口)

M 9 73 kg ①野口宏水(東京)

M 9 81 kg ①川上勝(岡山)

②川久保精祐(福岡)

M 9 90 kg ①駒井和雄(北海道)

②副島正秋(神奈川)

M 10 (75~79才) 60 kg ①岡田庫二郎(兵庫)

M 10 66 kg ①佐々木幾生(大分)

M 10 73 kg ①高橋勘十(岩手)

②中井司朗(奈良) ③安河内浩(東京)

M 10 90 kg ①森本唯行(神奈川)

M 10 100 kg ①奈良澄(愛知)

M 11 (80才以上) 66 kg ①大矢秀昭(東京)

M 11 73 kg ①美濃岡清三郎(兵庫)

M 11 81 kg ①上島 彬(大分)

②原田照夫(埼玉)

M 11 90 kg ①太田尚充(青森)

女子の部

F 1 63 kg ①川上優美(高知)

F 2 48 kg ①浦川由香里(佐賀)

F 2 70 kg ①廣石幸恵(大分)

F 3 48 kg ①山内久美(神奈川)



大会試合場全景 (TBSテレビ放送から)

- 年齢別体重無差別個人戦**
- F 3** 63 kg下 ①北由美子(石川)
F 4 52 kg下 ①石川正栄(愛知)
F 4 63 kg下 ①木下京子(宮崎)
F 5 57 kg下 ①岡本敦子(北海道)
F 5 78 kg下 ①上野和香子(北海道)
F 7 63 kg下 ①今立篤子(秋田)
F 8 57 kg下 ①長崎桂子(石川)
- M 1** ①奈木佑次(兵庫)
②坂本 究(長崎)
③中山幸久(大阪)・小山敏上(大阪)
M 2 ①浦崎勝治(大阪)
②緒方正憲(福岡)
③久保昌三(長崎)・平田和義(大阪)
M 3 ①松山尚浩(福岡)
②堂本和宏(長崎)
③浦川容伸(佐賀)・長谷川浩(東京)
M 4 ①三島正一郎(熊本)
②赤尾信行(山口)
③中野真利(大阪)・亀井隆平(東京)
M 5 ①卜部英幸(愛知)
②佐々木政彦(埼玉)
③飯塚雅彦(群馬)・村上和男(宮崎)
M 6 ①阿古裕弘(奈良)
②神園修一(東京)
③上木保男(千葉)・一言 力(静岡)
M 7 ①吉永豊貴(大阪)
②久保雅昭(東京)
③古成隆杜(東京)・浅田三男(神奈川)
M 8 ①五十嵐徳英(千葉)

- ②鷹尾健治(香川)**
③伊藤久雄(千葉)・山城武史(京都)
M 9 ①駒井 和雄(北海道)
②仁木征輝(岡山)
③山本健夫(東京)
M 10 ①栗村曜似(滋賀)
②森本 唯行(神奈川)
③高橋勘十(岩手)・岡田庫二郎(兵庫)
M 11 ①太田尚充(青森)
②美濃岡清三郎(兵庫)
③上島彬(大分)
F 1 ①川上 優美(高知)
F 2 ①廣石 幸恵(大分)
F 4 ①木下 京子(宮崎)
F 5 ①上野 和香子(北海道)
- 団体戦**
男子
 ①大分県(佐々木幾生、×、佐藤美弘、山田次光、田中穂波、穴井隆信、河野晋一郎、中島洋文、阿部淳、百瀬薫孝)
 ②柔剣会(兵庫)(栗村曜似、中井司朗、大矢八平、山本昭、雑賀昌盛、中本啓二、竹谷俊之、菅田和典、松村正隆、奈木佑次)
 ③渋谷混成チーム(東京)
 ④長船三菱柔道クラブ
- 女子**
 ①大分県(佐々木晃子、廣石幸恵)
 ②北海道旭川(上野和香子、岡本敦子)



団体戦男子優勝の大分県チームの皆さん

大分大会 会員便り

教え子の声援に感謝

山田次光

(大分県)

平成21年9月日本マスターズ大分大会にてM7の81kg級において優勝する事ができ大変嬉しく感激しています。実は第1回静岡マスターズ大会でM681kg級で優勝して以来の参加でした。今回は地元の大分県開催で絶対負けられないと言うプレッシャーがあつて最高のコンディションで試合に望もうと、自分なりに次の



目標を掲げて、足腰の強化と基礎体力を養う為毎日10kmの走りこみと週3回トレニングマシンで約1時間の筋トレを行い、柔道の練習も、高校生を相手にして立ち技、寝技の乱取りと気持ちは一新して、やるつもりでしたが、若い時の様なパワーも馬力もありません。

現実には幸いにも「40の手習い」で覚えた硬式テニスが役にたち、今年3月に無事定年退職しワイフやテニスフレンドと毎日(2〜3時間)テニスをしながら面白く走りこみをさせてもらって足腰の強化。週3回の筋トレは(学校に素晴らしい器具がある)マシン

を使って自分なりに考えて7種目を5セット約1時間ビツツシヨリ汗をかきます。これは最高の筋力アップになりました。

柔道の練習は実は週1回、それも怪我をしない様に充分にストレッチとウォーミングアップをしてと言いたいのですが、アップをするだけ現実には呼吸困難になり、いざ乱取り練習となるともうそのときはフラフラ状態です。でも老体にムチ打って心臓が止まらない程度にやるのが精一杯です。あまり無理をせずちょうど良いくらいの余裕を持つことが長続きをする秘訣かな?と体感した次第です。

又今回は30年前の教え子から今大会のプログラムに「あの時は先生の指導が怖かった。辛かった。あの感動がいまでも心に残っています。今、史上最強、恩師伝説のスタート頑張れ山田次光」と激励のメッセージ、又会場の2階に、「闘魂山田」山田門下生一同、の垂れ幕を作ってくれ応援してくれた教え子に感謝しています。

教員に成り立ての頃、がむ

しやらになつて部活動をし生徒達と勝つて涙、負けて涙した事を思い出します。いつも教え子の声援が大変励みになっています。次回は世界を目指そうかなと、実は心密かに思っています。これからも生涯柔道を通じて互いの健康と長寿の交歓、夢と感動の舞台で互いの交流を深め、新たな一歩を踏み出したいと思つています。これからマスターズ大会が益々発展します様祈念申し上げます。

第6回 大分マスターズ大会に参加して

上野和香子

(北海道 理事)

私がマスターズに出場するきっかけは、北海道から第1回目から出場している中尾先生に参加を勧められたからです。それで私は第2回目の大会から出場することになりました。



大会には、なんと80才過ぎの方達まで試合や形に参加されて頑張っている姿にと

ても感動いたしました。マスターズ大会は柔道を愛好していれば、誰でも自由に「形」や「試合」に参加できる素晴らしい大会です。

私にマスターズ大会を勧めてくれた中尾先生は現在、御病気で娘さんと一緒に暮らしておりますが、病院に入院されている頃、お見舞いに行くのと、とてもお元気で3畳位の畳の場所で柔道のトレーニングをして、看護婦さんに注意されたとお話をして下さいました。病気をしても落ち込まずに、また柔道に復帰したいという中尾先生の柔道家としての気力にとっても感動しました。

今回の大分大会では入賞はできなかったですが、一生懸命稽古して、また来年チャレンジしたいと思つてます。

道場での指導の中で、形だけの練習時間をつくる事は、なかなか難しいことですが週に1回、水曜日は「形」だけの稽古日をしており、女子は小学1年生からお母さん達まで「柔の形」を、男子は小学5

年生から中学生まで「投げの

形」を練習しています。子供達にも小さい頃より、形に慣れ親しんで欲しいからです。

最後になりましたが、これからも大会の会員、参加者が年々増えて、益々活気あふれる大会になります様に、心からお祈り申し上げます。

また、娘達の事で親睦会や試合会場等で沢山の人の、お声をかけていただき深く感謝申し上げます。これからもオリンピックに向けて、大事な試合が続きますが、応援宜しくお願い致します。

固ノ形「銅、銅の金」への道のり

中島 忠

(埼玉県 常務理事)

私は、ワールドマスターズ柔道へは、平成十五年第五回東京大会より、今年の第十一回アトラント大会まで七年連続参加しております。また、日本マスターズ柔道は、平成十六年第一回浜北大大会より本年第六回大分大会にも六年連続出場出来たことについては、健康であることと、妻をはじめとして、娘たちの理解があったればこそ達成でき

たと感謝し、充実した日々を送っております。

此の度の大分大会で優勝でき、固ノ形で金メダルを獲得できたことは、ひとえに茨城県石岡市在住の杉原道場主、杉原 尚先生のご指導、ご厚情の賜物と深く感謝いたしております。



固の形で金。杉原選手(左)と

間隔を短くとの思いから、杉原道場で大分出発の前日まで、ご指導をいただきました。その結果、優勝でき「金メダル」を獲得できました。

過日、孫が「じいちゃん」のメダルの色は、いつも同じ色だね。」と、なにげない一言に、いつか色の違うメダルをと、願っております。

私が、固ノ形を習得しようとして心を決めたのは、ウィーン大会の帰途、滋賀の片桐先生との出会いと前会長、野口先生のお取り計らいで、杉原先生をご紹介いただくことがきっかけでした。杉原先生のご快諾を賜り、杉原道場を訪問しながら稽古をし、講道館でも月に六回位お相手をしてもらいながら、ご指導を頂き、前回の秋田で念願の入賞「銅メダル」を頂きました。その後、今年アトラント大会でも銅メダルをいただきました。大分大会に向かうに当たり、杉原先生との打ち合わせで、稽古

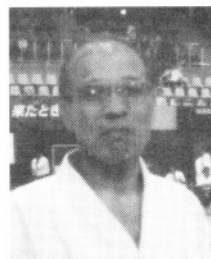
私は、マスターズ柔道と出会い、国内、海外と素晴らしい道での友ができ、友情を育み、柔道を実践する日々が、生涯送れるようにこれからも努めてまいりたい存じます。

多謝

「六十歳からの再チャレンジ」

久宮登三夫
(栃木県)

夕食もとらず最終のホバークラフトで大分市内のホテルに到着。明日の体重計量を無事通過することを願って十二時ごろ横になる。



エントリーが一番多いM7で決勝まで四試合を行うことができた満足できた大会でした。

また、翌日の無差別試合や、団体戦にも参加し、二日間八試合を行うことができ、本当に充実した、そして思い出多い大会になりました。

大会当日、朝食も水も取らずに会場に行き計量、一・五kgも余裕をもってパス。試合のことも忘れ、急にお腹がすいていることが気になり、水とコンビニで調達した食料を一気に食した。試合の前にお腹いっぱい食事をしてしまったことをチョツと後悔したものの満足感の方が満ちていました。

昨年(第五回)から参加し、二回目ですが、会場には、秋田大会で出逢った方々と、再会のあいさつや今大会への意気込み等の話題で話が弾み、マスターズ大会でしか味わえない和やかな人間関係が深まりました。

いざ試合となると、自分の年を忘れ、畳の感触と試合の醍醐味を思い出し、皆さん真剣そのものでした。そんな中、

私もチョツと緊張はしましたが、試合を十分楽しむことができました。特に、今回は、

れました。

これからも、柔道とマスターズを楽しみ、八〇歳を超えても試合にチャレンジしている先輩先生を目標に、六〇歳からの再チャレンジとして頑張っていきたいと思っています。

そして、これからも楽しい柔道を、子供たちに経験してもらうため、小さな町の柔道教室で大声を出して行きたいと思っています。

途中退部者の日本一
上木保男

(千葉県 常務理事)

安房高同級生で柔道部途中退部の羽山明君が、第6回日本マスターズ柔道大会において、M6(55から59歳)90kg級で優勝した。

羽山明君は、高1の2学期に入部し、本人曰く、「一番苦しい2年生を乗り越えて、楽になる高3で退部した。」

身長185cmの長身、手足が長く懐の深い右組みであった。彼が入部した9月、私はケガをして見学していた。角田先生から「コイツは、強くなるから内股の足上げを教えてやれ」と指示された。安房高の先輩

で立教大学の主将黒川秀明先輩(安房高に入学後柔道をはじめ、3年次には同期の篠巻政利先輩に次ぐエースとして活躍)とダブらせているようだった。私は169cmで内股から背負い投げに変更するように、

粕谷元帥から指令を受けて特訓の最中だった。羽山を見たとき、俺にもあの身長があつたらなあと思つて思つた。東京理科大学に入ってから羽山が、また柔道を始めたらしいくらいの情報しかなかった。

全国の理科系大学柔道でガンバッタことは、最近知った。そして東京理科大学の監督をしていることもここ2、3年前に知りました。全国高段者大会では、6段の部で今年優秀選手賞を受賞している。

10月16日朝7時29分羽山から携帯電話鳴る

電話に出ると女の声・・・、変だぞ・・・「初めまして羽山の妻です。主人が亡くなりました。携帯にあなたと撮った写真がありましたので連絡しました。」まだ何日も経っていない、第6回日本マスターズでの優勝メダルを胸に掛け二人で撮った写真が携帯に残っ

ていた。羽山が90kg級、私が81kg級。一緒に行っていた私の妻が記念にと撮ったもの。9月26日試合後、ホテルでのパーティ。二人で楽しく飲んで、安房高の柔道のこと話しかつた。次の日羽山は、無差別の試合には、筋肉痛だから出ない。準決勝で私とやる予定だった。その別れるときに、

世界マスターズと一緒にしようと思つたのが最後の言葉になるとは、羽山の奥さんも言うていたが、「本人も想像だにしかつた出来事に違いない。」

「なんで上木よ、俺はどうしてこつちの世界に来てしまったんだ。」と、羽山自身も思っているのではないのか。

人生はわからないもの、悔いの残らない一日一日を過ごすことを羽山に誓って。合掌



2009-9-27 羽山選手(左) と上木選手

二〇〇九年 マスターズ回想
日本マスターズ初代会長

野口 宏水



「野口 宏水様

昨日はお電話を有難うございました。お陰様で昨日一日は何となくハッピーでした。強くもない私の柔道が全国版になるとは いやはやけっさくです。これも元をただせば マスターズ柔道をここまで発展させた野口前会長の功績の賜物です。今後ともよろしく願います。尤も私も最近は大分やきがまわってきたと思う言動が多くなりました。まあ 周りも似たり寄ったりですから良しとしましょう。

山本 健夫

右は 第6回マスターズ大分大会が TBSサンデーモーニングで放送された10月4日の翌日に 山本さんより小生宛送信されたメールを少々面映ゆいですが山本さんのマスターズに参加して良かったとの素直な思いが出ていたのでご本人の了解を得て原文を転記させていただきます。

こころで

山本さんについてご紹介いたしますと 36年生まれの73歳 東京大学を卒業 敗戦後のドンゾコを漸く脱しつつあった時代に 日本を復興させるには自分が日本を引っ張って行く以外にないと勇躍 三菱商事に入社 爾来アジア ヨーロッパ 南北アメリカ果ては

アフリカと世界中を股に駆け巡り 日本の高度成長の尖兵となつて先導役を果たして来られた。時代を同じくする者なら分かるが そこには柔道も時には自分も家族も忘れ只管会社の業績を上げることしか眼中になかった筈です。やがて第一線を離れ フト来し方を振り返り 「自分は存分に生きてきた。世の中のために 日本国のために生きてきた。さあ これからは存分に自分のため 妻・家族のために生きよう。自分には柔道があつたんだ！ これからは離れていた柔道に返り 健康に生きていくことが自分に

ひいては国に取つても良いことだ！」とばかり柔道に還つて来られたのではないかと思えてならない。

山本さんや同窓赤門柔道倶楽部の柔友永島さんや先輩DR安河内に接していると 「子曰く、歳寒くして、然る後に松柏の凋むに後るを知る」(「寒くなつて他の草木が凋み始めた後で 初めて松や柏の緑が変らぬことが分かる」子罕九・二十八)の言葉が思い出されて来ます。

TBSや大分合同新聞では山本M9 VS 森本唯行M10の団体戦での対決の他 最年長の八五歳美濃岡清三郎 八二歳太田尚充のマスターズ対戦や地元大分出身の八三歳上島彬マスターズの他地元全日本選手権者のお父上 穴井隆信 山田次光 川上勝VS川久保清祐マスターズが次々映し出され アツパレ 熟練一本！であつた。

第一回IJF主催世界マスターズドイツ・ジンデルフィング大会

5月26日〜6月2日 右大

会に参加出場。詳細は山本常務理事報告を参照。

後日譚ですが 第2回以降の本大会への参加につき 細川伸二IJFベテラン・コミッション委員 村上清全柔連事務局長 森田さおり国際課員に JMJ A 清水会長 清家・毛利両副会長に小生4名が呼ばれ 今後の意向と意見具申を行った。

今までの第1回世界マスターズ大会への初参加に始まり 第5回柔道発祥の講道館大会を経て第11回までの経過報告と第6回を終えた日本マスターズ大会が国体の翌年に前年の県柔連に主管をお願いして極めてスムーズに見事に大会運営が行われていること 第1回IJF大会が試合のみにつき 第2回より形を加えて欲しいこと 試合を65歳以下になることのないようとの2点につき要望しました。

11月のIJF委員会で私どもの希望を伝える旨の細川理事の回答を得たことを報告します。これが了承されれば11回を終えて大会のパンフレットもない 運営不透明の大会が続くWMJAに代わつてこ

れからIJF大会へ参加する意向を伝えた。細川同委員に期待したい。

第11回アメリカ・アトランタ大会

十年一昔というが 99年第1回カナダ・ウエランド大会をアメリカ在住の宮崎 剛先輩に教えられ 丸の内柔道倶楽部で参加して既に10年の歳月が経過 処々方々で開催される国々へマスターズ同好の士と 形と試合で技を競い大会終了しては 世界各国の歴史 文化 風土 人々・に接し 所謂草の根外交を楽しみ自分の人生に更に充実したページを重ね刻んで来たが 早いもので11回目となり 南北戦争の地ジョージア州アトランタへ飛びました。第1回IJF大会の影響を受け 異例の8月(しかも日本のお盆と重なり 残念ながらいづも参加される内藤純常務理事ご夫妻は文字どおりお寺の最繁忙時期と重なり 又常連の永島監事 山本常務理事に栗本副会長 鬼柳常務理事夫妻等はIJFドイツ大会へ早々に参加されて 今回は参加不

能となった。

今回は このように異例の時期であり もう一つの懸念はアメリカ南部をこの時期襲うハリケーンであり 地球的異常温暖化現象が加わって大竜巻トーネードに巻き込まれ

第11回世界大会

メダリスト

形 (取右・受左)

金

極の形

男子

鈴木治雄

古式の形

男子

石邑 勇

五の形

男子

清水正敬

銀

柔の形

男子

清家春夫

五の形

男子

安河内浩

銅

投の形

男子

鈴木治雄

固の形

男子

石邑 勇

極の形

男子

杉原 尚

大矢秀昭

安河内浩

金

男子

太田尚充

83

MM

kg

級

銀

男子

大矢秀昭

80

MM

kg

級

銅

男子

山田雅弘

66

MM

kg

級

銅

男子

山田雅弘

66

MM

kg

級

銅

男子

山田雅弘

66

MM

kg

級

銅

男子

山田雅弘

66

MM

kg

級

銅

男子

山田雅弘

66

MM

kg

級

銅

男子

山田雅弘

66

MM

kg

級

銅

男子

山田雅弘

66

MM

kg

級

銅

男子

山田雅弘

66

MM

kg

級

銅

男子

山田雅弘

66

MM

kg

級

銅

男子

山田雅弘

66

MM

kg

級

銅

男子

山田雅弘

66

MM

kg

級



アトランタ大会会場、形の表彰式の後、メダルを胸に

るのではないかと不安があり これまで10回参加した中で一番恐れていたのはブラジルでの社会不安ではあったが それは人為的なもので君子危うきに近寄らずとしておけば避けることが出来るようになってきたが 今回の未経験の

天変地変には抗すべくを知らず 家を出るときは水杯で別れる程の気分の方もおられただろうと思う。大会はパンフレットもないので参加人数は把握できず

当然ながらヨーロッパからの知り合いの参加者は殆ど見られず 登録出場確認も相変わらず一族郎党が当たっており旧態依然は習慣化している。

森本先生にお返しします・冗談デス！）それにしましても参加マスターズ18人全員何らかの色のメダルを獲得 凱旋したのは アップレ！でした。

ケンタッキー・カーネル名 誉称号授与する。

スターズ勢は キラリと光って際立っていた。その中で 云い訳になりませんが この3月来両膝を痛め I J F 大会でも 2勝1敗とその負け様も不本意そのものであり このM9・73kgでも 森本チムドクターに

第11回世界大会の途次 参加団の第2目標 『生涯柔道を通しての草の根外交』を今回は ジョージア州の北 テネシー州を隔てたケンタッキー州・その草原がブルーに見えるのBlue Grass State と呼ばれている・・・と足を伸ばした。

「今まで野口さんの試合を沢山見てきたが あんなに見事に飛んだのは初めて見た！」と感じ入らせる程の讃辞を頂戴したものである。(その言葉はソックリ冒頭の山本さんとの試合で

歓迎の主は 小生に一昨08年の暮れケンタッキー・カーネルの称号を授章させてくれたカーネル・トニー・ラメイである。彼は20年前青森県三沢基地に海軍として2年間滞在 柔道 格闘技に熱中し除隊してからも故郷ケンタッキーにて道場を開いている。第5回記念国際秋田大会に応募するも 妻の罹病のため来日出来ず 今回我々の訪問となった次第である。ケンタッ

キー州立大学道場に同州会長をはじめ 同州を含む近隣4州(テネシー バージニア ウェストバージニア)より集めたという約50人程の柔道愛好家・・大多数はKY大学柔道部員・・を前に 前々日世界大会にて7つの形でメダルを獲得した我がマスターズによる演武は 本場講道館よりの形に 全観客愛好家に大きな感動を与えた。

アメリカ東南部ケンタッキーで初めて講道館七つの形の演武を披露した日本マスターズ団に対して かねてよりトニーはケンタッキー州知事に働きかけ 同州名誉称号のケンタッキー・カーネル賞を授与してくれた。受賞者は次の通りです。

太田尚充・安河内浩・岡田庫二郎・野口宏水・杉原尚・中島忠・清水正敬・竹内皓・鈴木治雄・西久保博信・清家春夫・三橋英夫・石邑勇

(以上の13名の他 急遽がん手術のため訪問中止を余儀なくされた栗本忠弘副会長にがん快癒を祝して大分大会開会式時追贈されました。)

このケンタッキー・カーネ

ルの称号はケンタッキー州・民に多大な貢献をした者に付与されるとされ そのHPによれば50名程の世界的な著名人の中には レーガン クリントン の両元大統領 チャーチル 英首相 Jパウロ法王 Bクロスビー Fプレスリーの超有名歌手 Mアリ タイガーウツドのスポーツ選手等々 小生授与された時はビックリしたものであり実際 今回の訪問でカーネル・ラメイに

対する州民の尊敬の念は格別と思われた。

カーネル・サングラスのKF C第1号店にて 出店時のままのレストランにて フライドチキンを食し 世界でアフリカのビクトリアの滝と2か所のみとされるムーンボ



ムーンボランド滝の前で、右端がトニー

キー競馬場 果てはバーボン ウイスキー等 個人として小生来年辺り1カ月位長期滞在したいと思ったところ。

後日 トニーよりこれだけ多くの日本からの講道館高段者を迎えて近隣諸州の柔道修行者に多大の感動を与え その発展に寄与したとしてUSJAと欽びと感謝のメールを寄せて来て 同時にUSJA CDR. Ann

Demars会長より次回もつと広い会場で全米USJA会員の前で日本マスターズ協会で形を演じて貰いたいとの要望が感謝状とともに贈られるとのこと であります。

2晩のレキシントン・ハリアット・リージェンシー滞在を終えて次はアメリカ最南端のフロリダ半島へ。

中南米やカリブ海諸国より

多数の入国者(密?) 船が入りするアメリカ最高の楽園 リゾート フロリダ。早速マリ奥特ホテルのプライベート・ビーチの海にスーパード求めた海水パンツを何十年?振りかて穿いて飛び込んだが 体に接するその海の水の快いこと!初めての経験で この感覚は生涯忘れないだろう と思った程の快さでした。

つ猫は珍しく 夜は最後の常夏のマイアミに最も似合うビールで乾杯を重ね楽しみつ夜更けまで生涯柔道の人生を満喫。 マスターズ 健康・健寿人生 万歳! 万歳!

来年は ハンガリーかモン トリオールか 或いはそのいずれもか。共に参りましょう!!

片道4時間は優にかけて 右手にメキシコ湾 左手に大西洋を見て走るバスで セブンマイルズ・ブリッジを渡り キューバを90キロにアメリカ最南端の地キーウエストで行写真撮影。

ノーベル賞受賞の文豪ヘミングウェイの四人目の妻と過ごした家で 長い間に異常六本の指を持



アメリカ最南端のフロリダ・キーウエストにて

Judo: Die Senioren-Weltmeisterschaften im Sindelfinger Gaspalast haben begonnen

Gute Kämpfe gegen prominente Gegner

Wer hier auf die Matte geht, ist erstens „alt“, zweitens „international“, drittens „gegen prominente Gegner“. Das ist die Situation der Senioren-Weltmeisterschaften im Sindelfinger Gaspalast. Die Teilnehmer, die am Donnerstag bei den Judo-Senioren-Weltmeisterschaften an den Start gingen, sind...

Ein ungeheurer Anlauf bei einem Frontmen und eine Vorwärtswurf in der Halbmutter. Vor der internationalen japanischen Weltmeisterin, die es schon, was das freudvolle Prinzip der eigenen Bewegung zu...

Begonnen hatten die Kämpfe mit einer kurzen Versammlung, die die Elektronik der Anzeigetafel, die auf Vordermann gebracht werden musste. Nach dem ersten Tag...

Ansonsten herrschte vor allem in den hohen Altersklassen eine freundliche Atmosphäre. Für die Senioren-Meisterschaften, besetzt sind vierzig Kämpfer (Judozentrum Heilbronn) war diese zweite Niederlage fast euphorisch. Ich habe gegen drei anderen Weltmeister und auch gegen den amtierenden, internationalen, Vize-Weltmeister...



Der Heubacher Frieder Bühler (oben): Einen starken Japaner fest im Griff

2009年5月29日ドイツ新聞 タイトルは『卓越した選手たちによる素晴らしい戦い』写真注は地元H市Fビューレル選手(上)の談話: “頑健な日本人にしっかりコントロールされてしまった。” (編集子訳) この試合は上木選手(下)の優勢勝

個々の戦績は、別表の通り (近代柔道7月号、講道館の柔道7月号に掲載された) なるも、何れにせよ翌日のドイツの新聞をして『この国際柔道大会を盛り上げたのは、日本から参加した高齢者の大活躍とその試合態度の立派さに

予想以上の戦果をあげる。持ち味を発揮し、選手団の活躍が最も期待できるところ。各人がそれぞれの

日本からは、男子選手10名、JJF (全柔連) 小野沢専務理事、講道館国際部大辻課長が同行され、さらに、応援団ご婦人2名を加えて計14名の陣容となった。

何しろ、この大会は、IJF/JJFの催しとしては初めてのであり参加決定が遅かった為、急ごしらえの、10名の参加者。初めはどうなるか

(東京都 常務理事)

山本健夫

ドイツで開催されたIJF (国際柔道連盟) 主催の世界マスターズ柔道選手権に参加して



ドイツ・リキエール選手(青)に一本勝ちの山本選手(白)

と思われたが、結果的には団体戦も含め、メダル10個 (内金メダル5個) と云う赫赫たる戦果を上げることが出来た。

5月26日現地着、まず飛行場にて独国柔道連盟の迎えを受けやつと一安心。5月28日からの大会は、参加者875名。IJFミゼール会長の挨拶の後、先ずは個人戦M6・M9の高齢者から始まる。この階級は我が日本選手団の活躍が最も期待できるところ。各人がそれぞれの

団体戦にも参加、これは60歳以上、体重別5人1組というクラ

ス。参加者の少ない日本チームの平均年齢は71歳、10歳近い年齢差に加え、重量級居ない為、体重でも1階級上

IJF主催 第1回 世界マスターズ(ベテラン)大会 日本選手試合結果

(ドイツ、2009-5-28~31)

個人戦

M2	73kg級	内村直也(大阪)	優勝
M6	81kg級	上木保男(千葉)	5位
M7	73kg級	佐藤光憲(スペイン)	5位
M8	60kg級	鬼柳一宇(岩手)	優勝
M8	73kg級	内藤純(栃木)	3位
M9	60kg級	永島健次郎(千葉)	2位
M9	66kg級	山本健夫(東京)	優勝
M9	73kg級	野口宏水(東京)	2位
M9	90kg級	栗本忠弘(大阪)	優勝
M10	60kg級	岡田庫二郎(兵庫)	優勝

団体戦

60歳以上の部 日本チーム 3位
(66kg級 鬼柳、73kg級 山本、81kg級 野口、90kg級 内藤、90kg超級 栗本)



最終日31日の試合開始前 全員で表彰台で

11

特別寄稿

第6回「国際柔道科学者シンポジウム」に参加して

中島たけし

(国士舘大学
武道徳育研究所長・教授)



この学会は世界各国において柔道をこよなく愛好している柔道研究者および学生のために最新の柔道についての研究や情報交換および総合協力を即し、教育及び科学関連分野への応用を促進する機会を提供する為に設立された学会で、隔年開催で行われ今回で6回を迎えました。

をそえられました。

さて今回の私の発表は、昨秋田県立武道館にて開催されました第5回記念日本マスターズ国際柔道大会時にアンケート用紙を配布して調査いたしましたものを使用しました。

この研究の動機は、元講道館館長・全日本柔道連盟会長の嘉納行光氏が数年前の新年のご挨拶で「(前文省略)、、、、」と、昨近世界の柔道は、柔道の創設者である嘉納師範が理想とした柔道が遍く普及したとは思われない、。、。というお言葉があり、ではいったい世界の柔道家は柔道に対してどのようなイメージを持っているかを知る事も今後の柔道の普及発展のために必要ではないかと考え、その一つとして今回の発表となった次第です。

「日本マスターズ柔道選手群と日本一流大学生柔道部員群のイメージの検討」

日本マスターズ柔道選手群64名で、31歳から83歳、平均年齢は、49・65歳で、柔道経験

年数31・02年、初段〜8段、平均段位5段であった。

日本一流大学生柔道部員群92名で、18歳から22歳、平均年齢18・62歳、経験年数8・23年、初段から3段、平均段位2.7段であった。

アンケート用紙の質問項目はわれわれが独自で開発した20項目を使用し、それを5件法で自分が強く感じたら、5から順に1の番号を付けて回答した。

調査は、2008年10月秋田県立武道館にて開催された第5回日本マスターズ国際柔道大会に出場した選手に依頼し、質問用紙を配布して実施回収した。

日本マスターズ柔道選手群のイメージの結果は、質問項目の中で、最も強く感じた項目は、「柔道の創始者は嘉納治五郎である。」その反対に最も低く感じた質問項目は、「柔道といえば谷亮子である。」であった。

まとめ、

2007年ブラジルで報告した結果では、日本一流大学生柔道部員群は、柔道に対して、競技に重点を置いたイメー

ジを強く感じたが、韓国一流大学生柔道部員群は、柔道は伝統的文化の一つではあるが、競技スポーツでもあると捉えていた。(柔道は、武道か? スポーツか?)

しかし今回の結果では、日本マスターズ柔道選手群は初めに半数以上の11質問項目が抽出され、最初の項目で全ての特徴が顕著に現われ、嘉納師範が理念理想とした、「精神力最善活用」「相譲相助」「自他融和共栄」が抽出され、柔道人生の中で培われているように思われた。

今後は、さらに調査を広げ嘉納師範の理念と理想が広く世界に普及され、敷いては世界平和に貢献できるものと確信する。

【参加発表者一覧】

中村 勇(鹿屋体育大学)
山田道夫(日本柔道整復師会)
長尾淳彦(明治国際医療大学)
火箱保之(京都産業大学)
岡田龍司(近畿大学)
中島たけし(国士舘大学)
橋本 昇(東京有明医療大学)
山田佳奈・春日 俊(立命館大学)

【結果報告】

最優秀賞(1位) 長尾淳彦
(明治国際医療大学)
優秀賞(2位) : 中村 勇
(鹿屋体育大学)
優秀賞(3位) 中島たけし
(国士舘大学)

日本人上位独占となり、柔道における日本の医学的研究のレベルの高さが証明された。

日本人の最優秀賞(1位)は今回が初めてであった。
次回は2011年フランス・パリにて開催予定。

【編集後記】

昨年は、会長交代、世界柔道連盟による第1回マスターズ大会の開催と、新たな発展に向けての大きな動きがありました。

今年のマスターズ柔道は、日本でも、世界でも、一層大きな輪になっていくものと期待されます。タイムリーな情報は、是非、日本マスターズ柔道のホームページをご覧ください。ただきたいと思います。
では、今年も楽しい生涯柔道を合言葉に、よろしくお願いたします。(KN)